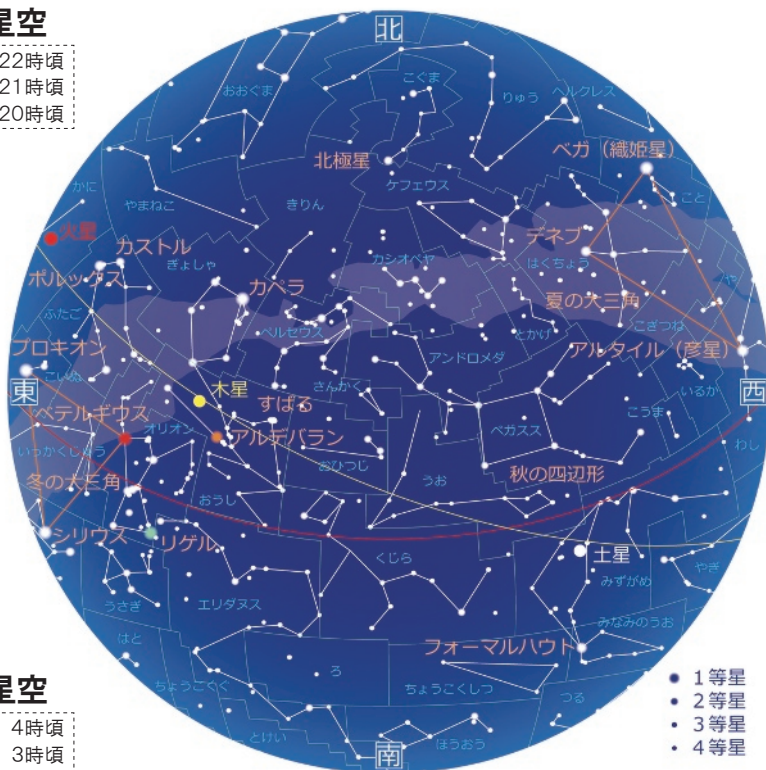


星空ガイド 11月16日～12月15日

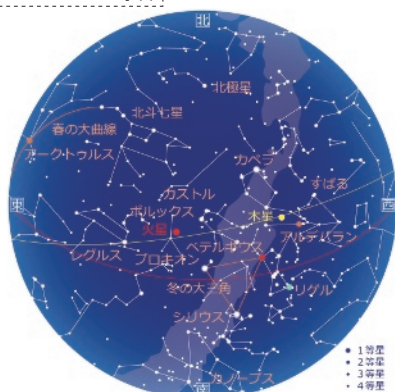
よいの星空

11月16日22時頃
12月1日21時頃
15日20時頃



あけの星空

11月16日 4時頃
12月1日 3時頃
15日 2時頃



〔太陽と月の出入り(大阪)〕

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
11	16	土	6:32	16:52	16:53	6:43	14.6
	21	木	6:37	16:49	21:58	11:43	19.6
	26	火	6:42	16:48	1:51	13:54	24.6
12	1	日	6:46	16:47	6:45	16:23	29.6
	6	金	6:51	16:47	11:03	21:23	4.9
	11	水	6:54	16:47	13:31	1:54	9.9
	15	日	6:57	16:48	16:23	6:46	13.9

※惑星は2024年12月1日の位置です。

土星食を観察しよう

12月8日の18時20分ごろから18時50分ごろにかけて、ほぼ半月の月が土星を隠す「土星食」を観察することができます。

8日の日没後、だんだん空が暗くなってくると月の左上のあたりに土星を見つけられます。続けて観察していると、時間がたつにつれて、土星が月の明るいところと暗いところの境目のあたりに近づいていく様子を楽しむことができます。



大阪市北区から見た土星食の様子

惑星食では、月の暗い部分に惑星が隠される場合には、徐々に惑星が暗くなっていく様子を肉眼でも観察できます。しかし今回の土星食の潜入(土星が月の後ろに入り込むこと)は月の明暗の境目付近で起こるため、土星が暗くなっていく様子は肉眼だと見づらくなることが予想されます。双眼鏡や望遠鏡を持っていれば、使用して観察するのがおすすめです。

ただ、同じ大阪でも観察するところによっては肉眼でも暗くなっていく土星の様子を楽しめる可能性があります。自分が観測する場所では土星が潜入していく様子がどのように見えるのか、その過程にも注目してみましょう。

月夜のふたご座流星群

ふたご座流星群が12月14日午前8時ごろに極大を迎えます。13日の深夜から14日未明までが観測のチャンスとなり、明かりの少ない星がよく見えるところであれば月没後から未明にかけて1時間に30個程度、住宅街では1時間に10個程度の流星が期待されます。ただ、その頃は15日に満月を迎える明るい月が夜空を照らしています。そのため、流星を探すときには、なるべく街明かりや月明かりの影響が少ない方の空を見るなど工夫して観察してみましょう。

野村 美月(科学館学芸員)

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
11	16	土	○満月(10時) 水星が東方最大離角
	17	日	この頃し座流星群が極大 天王星が衝
	21	木	月と火星が接近
	22	金	小雪(太陽黄経240°)
	23	土	●下弦(10時) 勤労感謝の日
	26	火	月が最遠(21時・405,158km)

月	日	曜	主な天文現象など
12	1	日	●新月(15時)
	5	木	月と金星が並ぶ
	6	金	水星が内合・近日点通過
	7	土	大雪(太陽黄経255°)
	8	日	木星が衝/土星食(18:22~18:45)
	9	月	●上弦(0時)/海王星食(17:16~18:22)
	12	木	月が最近(22時・365,180km)
	14	土	すばる食(3時~5時すぎ) ふたご座流星群が極大(8時)
	15	日	○満月(18時)